

佐高信氏 特別講演会

日本の新時代を切り開いた清河八郎の真実に迫る！

講師の佐高信氏



七月十五日（祝・海の日）響ホールを会場に、佐高信氏特別講演会「清河八郎の真実に迫る！」―清河八郎と明治維新―（主催：清河八郎顕彰会）が開催されました。当日は町内外から三百五十名の来場があり、清河八郎への関心の高さがうかがえました。



佐高信氏は講演で、清河八郎を西郷隆盛と比較することでその人物像を考察。「清河八郎が明治維新という改革に何を望んでいたか、農民や身分の低い者のための世の中を目指したのが、これから一番明らかにされていかなければならないポイントであり、今後の資料の解説等研究が待たれる。」と語られました。

七月十九日は、旧暦元禄二年（一六八九年）六月三日にあたり、俳人松尾芭蕉が清川に上陸した日であり、献茶会が開催されました。



七月十九日 芭蕉清川上陸の日 お茶等を奉納

清川歴史公園かわら版

回
覧

■発行所

○清川歴史公園
管理運営委員会

□庄内町
立川総合支所
立川地域振興係
TEL:0234-56-2217

○庄内町
「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会

□庄内町教育委員会
社会教育課
TEL：0234-43-0183

清川関所では、お茶やそばを奉納し、長旅の苦労を労いました。



舞を披露する長南さん

また、有志の長南一美さん（上幅）が花笠音頭松尾芭蕉バージョンを披露してください。会場を盛り上げました。

松尾芭蕉像は清川関所敷地内に建立されております。見学は自由となっておりますのでぜひ遊びにいらしてください。

7月13日・20日開催 歴史・文化への旅

新庄市、戸沢村、庄内町の地域
おこし協力隊(新・旧)の企画で、
七月十三日(土)及び二十日(土)
の両日、「山形県 歴史・文化へ
の旅」が開催されました。



七月十三日(土) 戊辰戦争に翻弄された 天童藩・上山藩を学ぶ

七月十三日(土)は、町内外から十七名の参加を頂き、戊辰戦争で翻弄された天童藩と上山藩にスポットを当て、天童の戦いの古戦場や上山城郷土館等を見学しました。

七月二十日(土) 庄内藩と共に戦った 松山藩の歴史に触れる

七月二十日(土)は、十六名の参加を頂き、庄内藩と共に戊辰戦争で勇敢に戦った庄内藩支藩松山藩にスポットを当て、清河八郎記念館の見学、松山地区のまち歩きや松山文化伝承館を見学しました。

【参加者募集】 第三回 歴史講座 in 清川 九月二十六日(木) 開催 清川と出羽三山参詣で

「西の伊勢参り、東の奥参り」と呼ばれるほど信仰のある出羽三山詣での登山口として大いに賑わったと言われる「清川」。今回は出羽三山研究の第一人者山形大学名誉教授 岩鼻通明氏が、清川と出羽三山詣でを紐解きます。ふるってご参加ください。

【集合】 清川関所正午
【会場】 清川関所
※関所内での座学になります。



講座の前に、食事処 御殿茶屋の「手打ちそば」と「そばぜんざい」昼食をお召し上がり下さい。
【参加費】 おひとり千五百円
【申込】 清川関所
【電話】 〇二三四(二五)五八八
五

昼食は関所名物 「手打ちそば」



この講座にはどなたでもご参加いただけますが、準備の関係上事前予約が必要です。先着二十名様となっておりますので、ぜひ早めにお申し込みください。
詳細は清川関所まで電話にて問い合わせください。

清河神社本殿移築工事のお知らせ

本殿を新たに建造し、現在の本殿は解体予定



昭和八年創建
清河神社本殿

郷土が生んだ幕末、明治維新の歴史的偉傑である清河八郎公を祀る「清河神社」の本殿は、昭和八年に創建され、九十一年の歳月が経過しております。当然のことながら、雪国の厳しい環境の中では、本殿の老朽化も著しく、幾度にもわたる修繕を経て現在に至っておりますが、度重なる修繕も限界を迎えており、本殿の根本的修復工事が必要となっております。

この度の修復工事では、直接雨、風、雪の影響を受けないように、現在の拝殿から本殿へ向かう渡り廊下を履殿として活用した、小規模な本殿を新たに造営する（令和六年十二月竣工予定）こととし、現在の本殿は誠に残念であります。準備が整い次第解体する予定となっております。【清河神社】

十二月竣工予定
清河神社本殿
完成イメージ



完成イメージ
(幅1.8m×奥行1.8m×高さ1.8m)
拝殿から履殿を通り本殿への渡り廊下内に新築

歴史の里のおもてなし ガイドの会より

七月二十五日線状降水帯発生に伴う大豪雨に見舞われました。清川関所駐車場にも泥水が流れ込み、後片付けにご協力頂いた関係者の方々大変ご苦勞様でした。

さて、ガイドとしてお客様に聞かれることの一つに、「旅人が舟を降りるのはどこですか？」という質問があります。今は頑丈なバイパスがあるので、昔の「川港」が想像できないのです。その時は「写真で見る清川の歴史」の写真を見て頂くと、皆さん納得していただけます。

清河八郎の父雷山の俳句に『永き日や風まつ舟の帆こしらへ』というものがあります。風を待つ何艘もの舟が川港に並び、船頭たちが帆の手入れをしているのどんな様子がうかがえます。

大水が出る度に不安を覚えた村人にとって、この堤防のバイ



国道47号線から望む最上川

パスの完成は、大きな喜びであつたことでしょう。

観光ガイドもお客様の安全に気を配りながら、楽しいご案内をお届けしたいと思ひます。

【会員募集】

きよかわ観光ガイドの会

私たちと一緒に清川を案内する仲間になりませんか。お客様と一緒にまち歩き（ウォーキング）は健康にも良いですよ。

「お問合せ」清川関所 電話
〇二三四（二五）五八八五



「清河八郎の『日記』」(二)
波乱の半生の
克明な記録



1

（前号からの続き）
今は関東が昔の京都のようなものだから、いったん戦争が起これば、英雄が出現するのは西国に劣ることはないだろう。

それはさておき、京都、大阪あたりは前述したとおり人当たりが柔らかい土地で、そのうえ神社仏閣が多く、遠国からやって来る観光客相手の仕事が多いため、田舎者が京都に行くことのほか

2



3

親切に思え、悪賢いところなどさらさら見せないため、ついにはその弁舌に乗せられて、財布の中身がなくなることも気にしなくなってしまうことがおうおうにある。まことに哀れむべきことである。

4



維新の魁
清河八郎を大河ドラマに！

「清河八郎」を主人公とする大河ドラマの実現を目指し、平成三〇年五月に「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会を設立しました。現在、清河八郎を多くの人に知ってもらいたい！という願いのもと、周知活動を行っています。

大違いである。そんなわけで、伊勢参りの祈りに初めて江戸に寄って十日前後留まる程度では、江戸は何やら騒がしく落ちつかないところだと思え、楽しみも起らないだろう。そのうちに帰国となれば、なるほど、江戸は面白くない、と思うに違いない。しかし江戸は真心のある土地、長く逗留していれば、次第に馴染み深くなり、

6



8

と話すのは大いなる誤りである。江戸は京都ほど古跡はないが、神社仏閣の多さではけっして見劣りはしない。ことに歌舞の賑わい、茶店の奇麗さといひ、まことに天下無双の地で、大名や高家を相手にしているため、京都とは違い、遠国の田舎者をだまして、無理矢理お金を奪い取るなどとする人はいふまでもなく、何事も手荒く、上方のように口は柔らかくはなく、

5

国元に帰りたい気持ちもなくなるものである。まことに楽しい土地である。京都、大阪ははじめのうちは面白く思われるが、もとより偽りが多く、表向きばかりの親切のため、わずかに二十日あまりも過ぎないうちに飽きて、退屈するようになるものだ。

7

「清河八郎」大河ドラマ誘致協議会
★Instagram★



@KIYO8KYOGIKAI

これまでの付き合いがあるので、かすかに興を催すのみ。もとより楽しみとしているのではない。
（安政二年六月十四日、
京都にて（終））

※次号は、「安政二年九月十日、旅最後の日」を掲載します。
次号へつづく
…「清河八郎グラフィティ」より

9